

次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

宇治の関白殿、あるとき、鼎殿に到つて、火を焼くところを見る。鼎殿見て曰はく、何者ぞ、左右なく御所の鼎殿に入るはと言つて、追ひ出だされて後、先の悪き衣服を脱ぎ改めて、願々として取装束して、出で給ふ。時に、前の鼎殿、遙かに見て、恐れ入つて逃げぬ。時に、殿下、装束を竿に掛けられて、拝せられけり。人、これを問ふ。答へて曰はく、「我、人に責びらるるも、我が徳にあらず。ただ、この[]のゆゑなり。」

(「正法眼蔵随聞記」より)

〔注〕* 宇治の関白殿 藤原頼通。

* 鼎殿 湯をわかす所。また、そこに仕える役人。

* 左右なく 勝手に。 * 願々 威勢のある様子。

英和ぶればある

氏名

- (1) この文章で人の言つた言葉は「[]」でくくられているが、もう一か所、会話文として「[]」をつけるべきところがある。その初めと終わりの三字を書き抜きなさい。

- (2) 線①「追ひ出だされて」とあるが、だが、だれに追ひ出されたのか。文章中から書き抜きなさい。

- (3) []にあてはまる言葉を、文章中から漢字二字で書き抜きなさい。

- (4) 線②「ゆゑ」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

- (5) この文章を通して作者が言おうとしていることを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人はしばしば、その外見だけで相手を判断するものだ。
イ 人からあなどられぬように身なりを整えることが大切だ。
ウ 時間や場所をわきまえ、それに合った行動をとるべきだ。
エ 徳のある人は、粗末な服装でも人から尊敬されるものだ。